

北海道浮魚ニュース

平成24(2012)年度16号

2012年9月14日

地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部

釧路水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎道東太平洋マサバ・マイワシ漁期中調査結果

北辰丸(釧路水産試験場調査船)によって行われたマサバ・マイワシ漁期中調査の結果をお知らせします。

調査期間

2012年9月4日～9月12日

調査海域および調査点

道東～三陸沖合太平洋海域

(北緯41度00分～42度40分、
東経144度00分～146度30分
：親潮系冷水域および黒潮系暖水域)における8調査点(図1)。

調査方法

10種類の目合(22・25mm：30間切り各1反、29・37mm：30間切り各4反、48mm：60間切り2反、55・63・72・82mm：60間切り各1反、182mm：60間切り15反)の流し網を用いた漁獲試験。

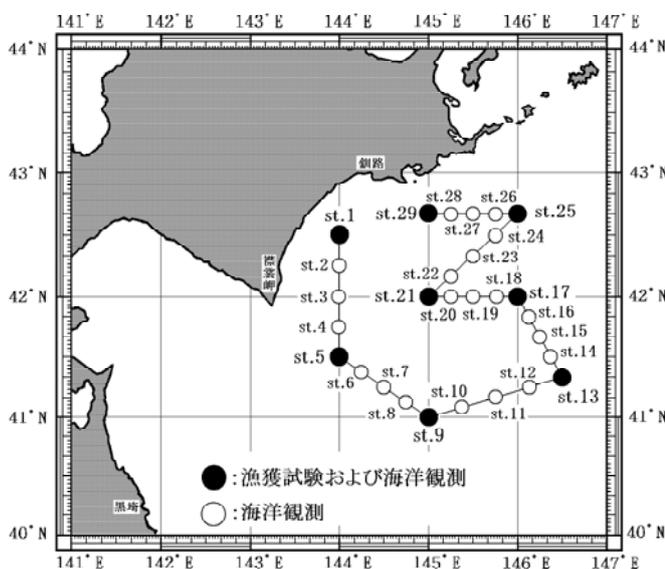


図1 漁獲試験調査点

調査結果

①漁獲試験を行った7調査点の表面水温は18.5～23.0℃(前年：16.7～22.0℃)、50m層は3.0～12.5℃(前年：4.9～11.8℃)、100m層水温は2.1～7.3℃(前年：2.3～9.9℃)でした(表1)。

表1 水温および魚種別採集尾数

st.	1	5	9	13	17	21	25	29	合計
表面水温(°C)	19.0	19.8	22.9	22.9	23.0	18.1	20.3	18.5	
50m水温(°C)	8.9	6.7	12.5	6.6	10.1	7.9	3.0	4.8	
100m水温(°C)	2.7	4.6	5.4	5.4	7.3	2.9	3.1	2.1	
サバ類	547	861	224		156	492	104	478	2,862
マイワシ	3,514	643	1		3	409		122	4,692
カタクチイワシ	1,317					6			1,323
サンマ	2				4		3	2	11
スルメイカ	200	20						1	221
アカイカ	1	72	164	114	56	33	298	4	742

②調査点別の魚種別漁獲尾数（表1）および流し網調査1回当たりの漁獲尾数（CPUE）の経年変化（図2、4、6、8、10、11）ならびに漁獲試験で採集された漁獲物（図3、5、7、9）は以下のとおりです。

・サバ類(マサバ、ゴマサバ)

7調査点で104～861尾、合計2,862尾漁獲されました(表1)。

CPUEは357.8尾/回で、前年の402.0尾/回を下回りましたが、1994年以降では2番目に高い値を示しました(図2)。

しかし、全国の資源評価によれば、資源水準は依然低い状態にあるものと思われます。

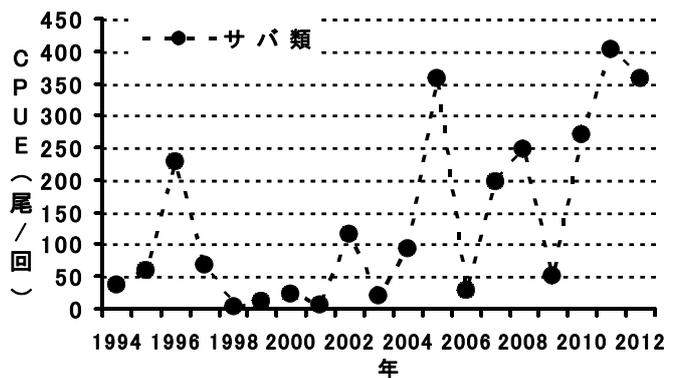


図2 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化(サバ類)

魚体は尾叉長17cm台と21～25cm台に27～40cm台で、30～34cm台の個体が主体(図3)で、前年(主体:31cm台)より大型でした。

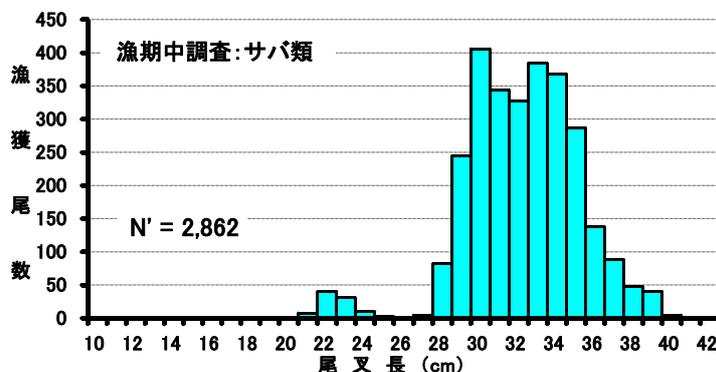


図3 サバ類の漁獲物体長組成

・マイワシ

6調査点で1～3,414尾、合計4,692尾漁獲されました(表1)。

CPUEは586.5尾/回で、前年の5.3尾/回を上回り、1994年以降では最も高い値を示しました(図4)。

全国の資源評価によれば、資源動向が増加傾向で、資源水準は中位の状態にあるものと思われます。

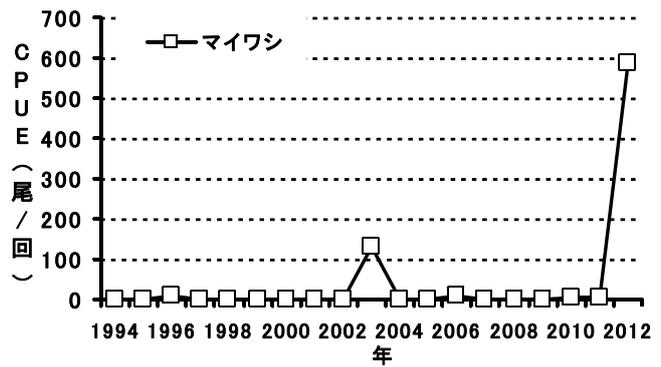


図4 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化(マイワシ)

魚体は体長15.5～24.0cm台と27.0cm台で、20.0cm台(副モード17.5cm台)の個体が主体(図5)で、前年(主体:17.5cm台)より大型でした。

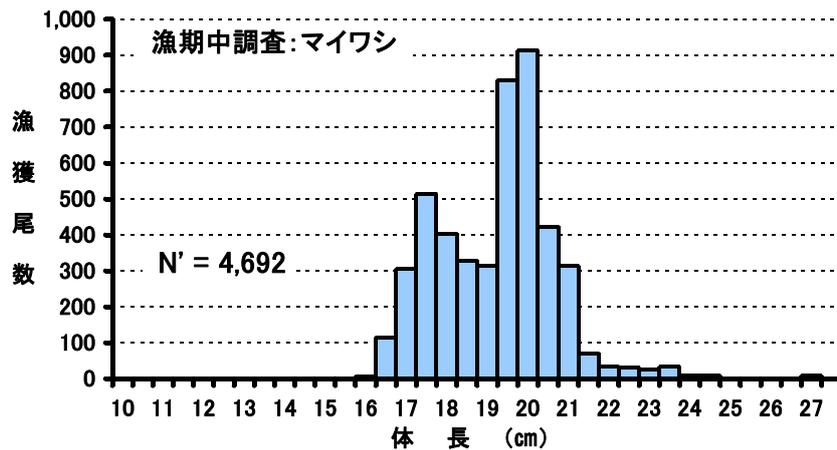


図5 マイワシの漁獲物体長組成

・カタクチイワシ

2査点で6～1,317尾、合計1,323尾漁獲されました(表1)。

CPUEは165.4/回で、前年の0.8尾/回を上回り、1994年以降では7番目に高い値を示しました(図6)。

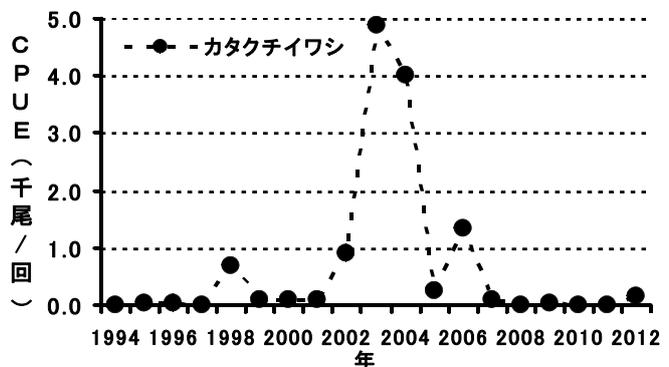


図6 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化(カタクチイワシ)

魚体は体長 11.0cm 台と 12.0 ～ 14.5cm 台で、13.0cm 台の個体が主体で（図 7）、前年（10.0 ～ 13.5cm 台）より大型でした。

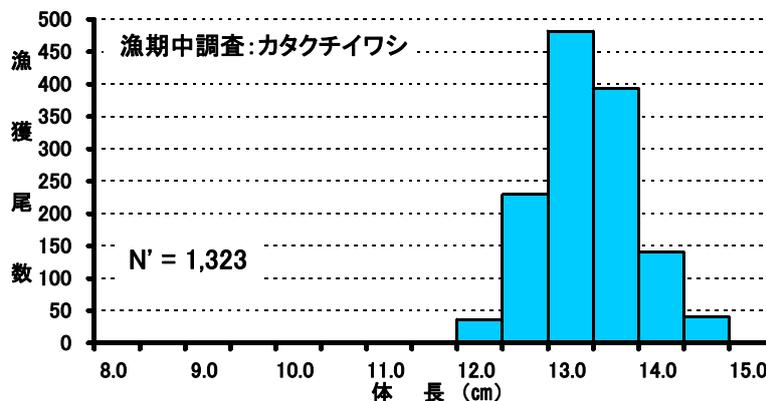


図7 カタクチイワシの漁獲物体長組成

・サンマ

4 調査点で 2 ～ 4 尾、合計 11 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 1.4 尾／回で、前年の 175.5 尾／回を大きく下回り、1994 年以降では最も低い値でした（図 8）。

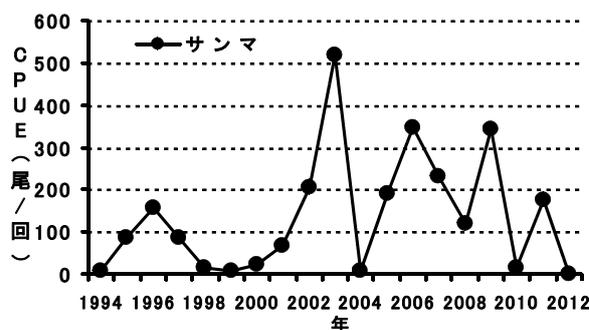


図8 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化(サンマ)

魚体は肉体長 22cm 台と 30 ～ 33cm 台で、31cm 台の個体が主体（図 9）で、前年（主体：25cm 台）より大型でした。

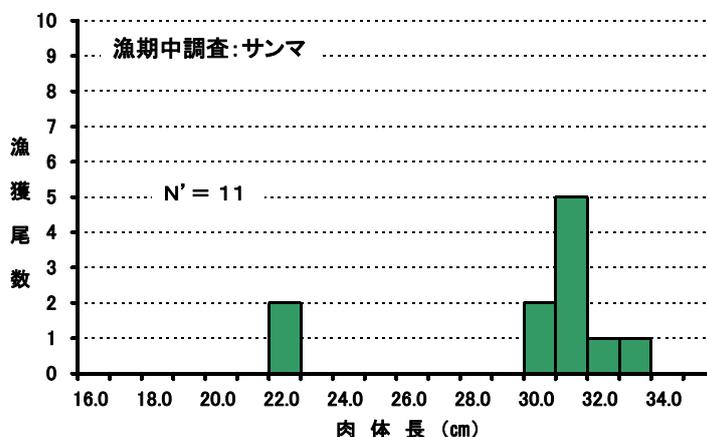


図9 サンマの漁獲物肉体長組成

・スルメイカ

3 調査点で 1 ～ 200 尾、合計 221 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 27.6 尾／回で、前年の 80.3 尾／回を下回り、1994 年以降では 10 番目に低い値でした（図 10）。

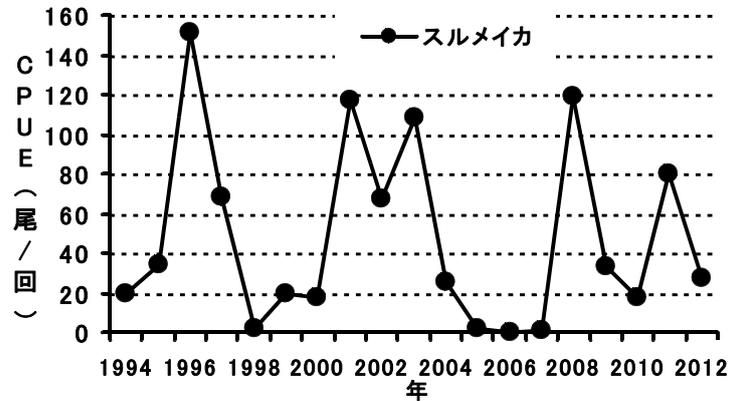


図10 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化(スルメイカ)

・アカイカ

全ての (8) 調査点で 1 ～ 298 尾、合計 742 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 92.8 尾／回で、前年の 1.0 尾／回を上回り、1994 年以降では 8 番目に高い値でした（図 11）。

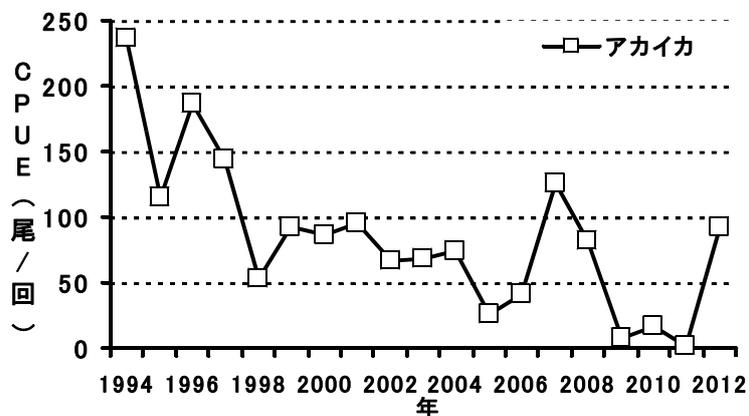


図11 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化(アカイカ)

(文責：道総研 水産研究本部 釧路水産試験場 調査研究部、
直通電話：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225)